

つきたい力

- ・情報を適切に取捨選択する力
- ・伝えたい内容を適切に要約する力
- ・相手に伝わりやすいよう、工夫して表現する力

取組みの概要・ポイント

思考ツールを活用して情報を整理したり、相手に伝える内容の優先順位を考えたりすることで、要点をおさえたわかりやすい表現になるように工夫し、学んだことを他校とのオンライン交流等で発表する。



←情報活用
能力系統表

具体的な取組みの内容

情報を取捨選択する

●思考ツールを活用し、優先順位を考える

4年生総合的な学習の時間「自然災害から人々を守る活動」(研究授業)

災害が起きたときに備えておくといふ物考えた。持ち出せる量には限りがあるため、思考ツール「座標軸」を活用して「必要⇔あった方がよい」「備蓄する⇔持ち出す」の2つの視点で優先順位を決め、その備えがあったほうがよい理由を説明した。

学習指導案→



思考ツール活用
学年別到達目標→



●要点をおさえて工夫し、学校外の相手に伝える

5年生総合的な学習の時間「桃の木うみうみプロジェクト」



豊中市立刀根山小学校の児童とZoomで複数回交流し、海の魅力や阪南市の特産品などについて調べたことを1人1枚のスライドにまとめ、発表した。資料の文章を要約し、本当に必要な情報だけを伝えるようにした。

わかりやすく表現する

●相手意識を持ってわかりやすく話す工夫をする

3年生国語科「わたしの町のよいところ」



阪南市内の他の小学校とGoogle Meetで交流し、自分たちが住んでいる町にある施設などを紹介し合った。発表の練習を画面録画し、話し方や資料の見せ方などについてグループでアドバイスをし合うことで、よりわかりやすい発表になるように工夫した。

●実験結果から言えることをわかりやすく思考ツールにまとめる

5年生理科「植物の発芽と成長」(研究授業)

植物の成長と日光・肥料は関係があるのかについて対照実験を行い、その結果からわかることを思考ツール「ベン図」「熊手チャート」「データチャート」のいずれかにまとめた。使用する思考ツールによって着目する点が変わるため、多面的に実験結果を捉えることができた。



↑
学習指導案

取組みを通しての子どもの変容

- ・タブレット端末が授業に普段から取り入れられるようになっている。(「毎日のようにタブレットを使う。」高学年肯定的回答率1学期60%→2学期77%)
- ・情報の出処を意識し、信頼できる情報を集めようとする意識が高まった。(「インターネットなどを使って情報を集める際に、信頼できる情報を集めている。」高学年肯定的回答率1学期87%→2学期93%)
- ・調べた成果をまとめる際、資料の文章をそのまま写すのではなく、考えて要約したり、スライドの言葉を端的に表したりするようになった。